

事務事業名		地域子育て支援センター事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	04 安全が確保されたまちづくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成13 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	15 子育て支援の推進			
	基本事業名	02 地域における支援体制の整備			
根拠法令		子ども・子育て支援法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 03 02 01 14	
所属	部課名	生活福祉部子ども課			
	課長名	下田牧子			
	係名	子育て支援係	電話 0192-27-3111		
	担当者	安居清隆	内線 191		

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
 子育て親子間の交流を深めるとともに、子育てに関する各種相談や援助、また、地域の子育てに関する情報発信を行うため、専門的な知識を蓄積する保育所や市内ショッピングセンター内に「地域子育て支援センター事業」を委託し、妊婦から未就学児とそのご家族を対象に育児相談を行うほか、親子が集う各種催し物などを実施し、地域の子育て家庭が孤立しないように支援する事業を行う。
 【手順】 ①委託契約の締結②委託金の支払い(4月・12月の前金払い)③実績報告
 【委託先】 猪川保育園、大船渡保育園、NPO法人 こそだてシップ
 【委託費】 1施設あたり年額 7,400千円～7,453千円

全体計画(※期間限定複数年度のみ)		
総投入量 (千円)	事業費	
	財源内訳	
	国庫支出金	
	都道府県支出金	
	地方債	
	その他	
	一般財源	
事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数	
	延べ業務時間	
	人件費計(B)	0
トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 猪川保育園、大船渡保育園、NPO法人 こそだてシップ に事業を委託した。 (交流の場の提供、育児を中心とする各種相談業務、情報発信などを実施) 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様。			⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)						
			名称					単位	
			ア	地域子育て支援センター数	所				
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 乳幼児から小学校就学前児童とその保護者等			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)						
			名称					単位	
			カ	地域子育て支援センター利用延べ人数	人				
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 各施設の開放、行事開催など子育て親子間の交流を深めるほか、子育てに関する専門的な知識を持つ職員等を配置することで、子育て親子間の育児不安の相談等に対応でき、育児に関する不安を解消できる。			⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)						
			名称					単位	
			サ	地域子育て支援センター利用延べ人数	人				
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安心して子どもを産み育てることができる。			シ ス						
(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	7,400	7,400	7,400	7,400	3,700	3,700
		都道府県支出金	千円					3,700	3,700
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	7,400	7,400	7,400	7,400	7,400	7,400
	人件費	事業費計(A)	千円	14,800	14,800	14,800	14,800	14,800	14,800
		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	15	15	15	15	15	15
		人件費計(B)	千円	60	60	60	60	60	60
		トータルコスト(A)+(B)	千円	14,860	14,860	14,860	14,860	14,860	14,860
⑤活動指標		ア	所	2	2	2	2	3	3
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	人	4,500	6,659	5,506	6,104	9,599	9,000
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	人	5,268	6,659	5,506	6,104	9,599	9,000
		シ							
		ス							

事務事業ID	0232	事務事業名	地域子育て支援センター事業
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

地域の連携も薄れ、子育てに不安を抱えて孤立する家庭が増加しているため、「地域子育て支援センター」を2箇所を開設している。参加者も増加し、子育て家庭の息抜きと交流、情報交換の場として、子育て家庭に浸透してきている。

平成17年度から国の補助金ではなく、交付金対象として実施(次世代育成支援対策交付金)し、平成23年度から子育て支援交付金、平成25年度から安心子ども基金、平成27年度から子ども・子育て支援交付金となっている。

平成27年度には市内ショッピングセンター内に大船渡市子育て支援センター「すくすくルーム」を開設し、NPO法人に委託している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。(要望に応え、18年度及び27年度に増設)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	子育て相談や子育てサークルへの指導援助などを行うことにより、育児不安の軽減を図ることができる。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	子ども達の安全が最優先される今日、誘拐や虐待とうから子ども達を守るため、各種子育て支援が求められている。この事業は相談や支援により、児童を守り、同年代の子ども達と安心して遊ぶことのできる場の提供を実施し、児童の健全育成を目的に実施しているため、市が行うべき事業である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	乳児から就学前児童及びその保護者等を対象にした事業であり、対象を拡大する余地はない。子育て不安の解消を図るという意図は妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	事業の認知度をさらに上げるよう周知を図り、多くの人に活用されるようにする。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事業事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	事業を廃止した場合、子育て相談や育児不安の解消の場など、子育て支援の機会が減り、子育て支援施策が後退する。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) つどいの広場事業	
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	国の補助基準に基づいている。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	市は委託契約や委託料の交付など最低限の事務しか行っていないことから削減の余地はない。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	集いの場の提供や相談事業は公共性が高く、受益者負担は妥当ではないと思われる。	

事務事業ID	0232	事務事業名	地域子育て支援センター事業
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 27年度の増設により、人口規模における施設数は適正となり、利用実績は良好に推移している。 今後も事業の周知を図りながら継続し、多くの対象者に活用されるように努める。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業の周知を図りながら、利用者のニーズに対応するため事業内容の充実を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 課題: 利用者のニーズを把握すること。 解決策: 利用者からアンケートや聞き取りによりニーズ調査を行う。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	子ども課長	下田牧子
-------	-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされており、利用実績も良好であるが、母親の子育て不安解消のため、更に周知を図っていく必要がある。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 地域における子育ての相談窓口となっていることから、今後も保育園及びNPO法人与自然連携して事業を実施するとともに事業の周知に努め、多くの人に活用されるようにする。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持																						
	低下																						

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
